

SADA

SAKAI DESIGN ASSOCIATION

堺デザイン協会

NO.16
1994年6月



10周年を迎えて

岡村 筈

昭和58年12月に発足した堺デザイン協会は、今年10周年を迎えた。堺にもデザイン関係者の集いがあるのもいいのではと初代川崎理事長から話があり、当時堺市の横山、明度両氏のところへご相談に行き、以来である。発起人7名による会合が持たれ、全国組織のデザイン団体名簿から堺関係の35名が選ばれ発足した。それまでになかった関係者の横のつながりが出来、会報SADAが発刊され、微力ではあるがデザインの啓蒙活動も行って来た。とにかくタガが外れずに10年やって来れたのはひとえに川崎前理事長のご尽力の賜物である。



デザインの言葉の意味も一昔前とは変わりつつある。職能としてのデザインの専門細分化もそれなりの意味を持ちながら、もっとマクロでトータルに見直される時代がやって来た。それは情報がよりスピーディーに地球の何処へでも伝わるようになった所為もあり、せめて地域単位で物を考えなければならなくなったからとも言える。堺をとりまく環境も、いやおうなくその流れの中にあるし、周辺の都市が例外なく意欲を見せている。

堺は今変わりつつある。文化振興ビジョンがつくられ、文化の街づくりが叫ばれるようになったが、文化の実態は一体何だろうか。最近政令指定都市を睨んだ区制のための建物と一緒に教育文化センターをはじめ、美術館、与謝野晶子記念館等々文化的建築物が計画されつつある。一方その恩恵を受けるはずの堺の住人はどうだろうか。個人レベルで我が家の環境を考える時は誰しも真剣であるが一步街づくりや皆んなの施設となると他人まかせで、批判と権利の主張ばかりしかなくなる。

堺は今外部からどんな風に見えるのだろうか。かつての歴史や文化遺産はどのように生かされているのだろうか。街づくりともなると予算も規模もそれなりに大きいし、それにたずさわる人の責任も重大である。誰しもこれから

ごあいさつ

川崎 浩

永い間、いたらぬ私を支えて下さった皆さんに、御礼を申し上げます。

「生みの親より育ての親」といいます。新しい事を生み出すには皆んなが心を合わせて努力します。然し出来てみると、育てる事は目立たない故かどうしてもおろそかになりがちです。

育てるには「大きく、丈夫に」と云うわかり易い目標もありますが、その時代に合った、少し先取りをした目標を常に考える事も、デザインの大事な働きでもあります。10周年を迎えて、新しい出発点として、岡村理事長を中心として全員で、私も会員の一人として皆様方と一緒に努力するつもりでございます。どうぞよろしく。有難うございました。

(第10回総会后に理事辞任の挨拶より)平成5年6月8日

何かしようという時、先ずデスクワークから始まるのだが、その時の創造力、ものを考え出す力によりその事業全体がよくも悪くもなる。形のある建物づくりはまだ周囲の理解も早い、その中味を考える事はもっと重要なことなのにまだまだお粗末でそれをする人も重要視されていない。個々別々の建物なり街の姿が何か統一された意識で感じられるように出来ないか。それがデザインの世界であり、堺デザイン協会に課せられた重要な仕事ではないか。意識を目に見える形にすることはデザインの最も重要な役割である。堺はこんな街ですよと訪れる人が言ってくれる街づくりを、堺の人々が執着してより具体的に取り組む事がこれから先何よりも必要になる。堺デザイン協会の皆さん、君の意見はどうですかとの質問にすぐ答えられますか。ものをする事、今までになかった事をする時、必ず批判や叱声がかかってくる。そんなことを恐れているのはこれから先を考える事は出来ない。それぞれの立場で地元堺のためにより具体的な力を発揮していこうではありませんか。こちらが仕掛け人となって行政とも話し合っていこうではありませんか。

SADA新春の《講話と懇親のつどい》

—1月27日 東京第一ホテル堺で開催—



SADAの新春恒例《講話と懇親のつどい》は、久々の寒気に身を引き締める1月27日夜、東京第一ホテル堺で開催されました。

講師には、お隣りの奈良デザイン協会から松田豊会長をお招きして「大工道具のデザイン」についてお話しをうかがいました。ご専門の色彩学を離れて、貴重なコレクションの数々をお持ちいただいた大工道具のお話しには、趣味の領域をはるかに超えたコダワリと造詣の深さがあふれ、何げない日常の道具たちに込められた“用”と“美”の巧みが説き明かされるにつれて、あらためて驚き、感心し、興味が興味を呼んで、しばし時の経つのを忘れました。

その後、懇親会の会場に場所を移し、堺市や関連諸団体からのご来賓、賛助会員の方々などをまじえて、賑やかな歓談の小宴となり、楽しい雰囲気のうち、9時過ぎに散会しました。

講話「大工道具のデザイン」奈良デザイン協会会長 松田 豊

私、専門の仕事は色彩でございますが、大工道具が子供の頃から好きで、ずっと手にしてまいりました。これはあくまで、素人が趣味として集め、趣味として使い、今日に至っているものでありまして、道具のデザインなどについては、川崎さんをはじめ皆様の方がはるかに詳しいと思っておりますが、それを畏れずに、これからお話しをさせていただきます。

こうと厚かましく考えております。どうぞよろしくお願いたします。

では、大工道具というものに何故興味を持つようになったかと申しますと、私は昭和4年の生まれでございます、小学校の頃は、まだ物資もたくさんありましたが、中学へ行きはじめた時には、戦争でほとんどモノがない時代になっておりました。何か欲しいと思えば、自分で作らなきゃならない……。そこで、父親にオネダリをしまして、小さなカナを買ってもらい、それで模型飛行機とか、いろいろなものを作るようになったわけです。

戦後間もなく、“ジェーン台風”に見舞われました時は、家の回りの塙を全部飛ばされてしまいました。大工さんと呼んでも来てもらえない…、これじゃどうしようもないと、一念発起して自分で塙を作りはじめたわけですが、道具の良いものが手に入らなくて、大変苦労しながら仕事をしたことがありました。

それ以後、この大工道具の持つ魅力に取りつかれまして、よし、それじゃ大工道具を集めてみようという気持ちになりました。それで、昭和35年頃に東京に転勤となりましてからは、東京の大工道具屋さんを片っぱしから歩き回って、そこに並んでいるものを、お小遣いの許すかぎり買い集めるようになりました。

もう一つの理由としては、日本は木の国で木造文化が非常に発達しており、千年を越す建築文化財がたくさん残っておりますが、それらの「木造の美と知恵」や「木の美しさと加工の美しさ」というものに触れまして、これは素晴らしい…、こういうものが手の道具で作られるんだな…と悟った、ということでございます。

この大工道具を、ヨーロッパのものと日本のものと比較してみますと、そこに決定的な違いがございます。ヨーロッパの大工道具というのは、一般の人が使ってもある程度の加工ができるように初めから用意されています。ところが、日本の大工道具となると、修練を積んで道具を使いこなさなければ何もできない、というところがございます。ひたすら、「使う」「慣れる」そして「熟練する」ということが前提となって初めて素晴らしい加工ができる…、そういう違いをもっております。

また、大工道具のデザインをいろいろ見ておまして、なぜここが、こういう風になっているんだろうという疑問を一生懸命に追究して行くと、なるほど、こんな知恵がここにあったのかと感心させられます。考えてみますと、ノコギリというものは、法隆寺を建造した当時のものが残っていますが、一般的には、平安の頃から大体45世代・1300年にわたり、知恵を積み重ねて現在の形にまでなって来たわけでございます。

—(編):以後、持参されたスライドや実物の数々を示しながら、大工道具の発達と細分化の歴史、種類と構造、精密な仕掛けと使い方などについて、1時間余りにわたって実証的なお話が続きましたが、残念ながら紙面によってお伝えすることができません。松田さんがレジュメとして用意されたお話しの要点を抜粋して、次のページに紹介させていただきます。——



松田豊氏のプロフィール

◆1929年、大阪市生まれ。51年、京都芸大(現)・工芸意匠科を卒業。日本流行色協会を経て、61年、東レ(株)に入社。色彩デザインの専門職としてマーケティング戦略にたずさわり、商品企画などを担当。アパレル企業・産地でもファッショントレンドやテキスタイルデザインの指導を行うなど、主に、繊維業界で活躍する。

◆87年、東レ(株)退社後、《MAZDA COLOR PLANNING OFFICE》を設立。カラーデザインのコンサルティング活動を続ける。現在、日本色彩学会評議員、日本色彩研究所評議員、大阪樟蔭女子大講師、奈良デザイン協会会長などを兼務。「新編・色彩科学ハンドブック」「色彩科学辞典」「アパレル研究誌」「カラーハーモニーコレクション」など著書・共著書多数。



大工道具について

◆建築と道具のかかわり方

*建築の構造に奉仕する道具

規矩準繩・罫引き・鉞・鋸・鋳・鑿・榑・釘抜き・釘締め

*建築の美に奉仕する道具

槍鉋・台鉋・彫刻鑿・雑道具

◆鋸の種類と構造

*種類

大鋸・前挽大鋸・縦挽き・横挽き・胴づき・回し挽き・両刃・船大工・弦鋸・その他

*鋸刃の形

縦目・横目・いばら目・箱屋目(剣歯)・釣鐘目(桐挽き目)

◆鉋の種類と構造

*種類

・槍鉋
・台鉋

平・面取り・際・榑布倉・溝・反り・四方反り・台直し・南京・豆・入り隅面り・地金削り

*刃の構造

一枚刃・二枚刃

◆鑿の種類と構造

*種類

追入鑿・向待鑿・厚鑿・薄鑿・突鑿・鉋鑿・鑿鑿・鑿鑿・丸鑿・彫刻鑿

◆大工道具の名工(現在)

《鋸》:伊之助(三条)、貞助(東京)、雄造(千葉)、正一郎(三条)

《鉋》:石堂(東京)、湯沢(東京)、碓永(与板)

《鑿》:大内(三木)、舟弘(与板)、清忠(東京)、市弘(東京)

《玄能》:幸三郎(三条)

《彫刻刀》:小信(東京)

《小刀》:飯塚解房(三条)、岩崎重義(三条)、白鷹幸伯(松山)

《曲者》:左久作

(文責・桑原)

ちびっこ年賀状コンクール



昨年12月14日(火)、堺市JAによる堺市内児童年賀状展作品を、堺デザイン協会の岡村節理事長、岡本安吉会員がJA堺市役員とともに審査を行った。

24支所の幼稚園、小学1年から6年生までの合計5,284点の展覧作品を各支所ごとに仕分けし、優秀作品を選出していく。審査基準は ●自作である ●個性的で清新 ●明るく健康的 ●ストーリー性があり楽しい ●アイデアに優れたもの、などである。

全体的に低学年の方が自由奔放で色彩感覚が素晴らしく、こだわりがなく、審査する時にもワクワクするような作品が多い。ところが5～6年の高学年になると、ものの形やこだわりが多く、オドオドとして色合いも暗くマスコミのキャラクターなどの物まねが目につく。今、子供に一番関心があるのは、恐竜とJリーグ、海外旅行をテーマにしたものが圧倒的に多く、今の世相を反映している。

作品の捉え方も従来の新年を祝う年賀状でなく、美しいメッセージカードという捉え方が多い。

来年は戌年で、犬をテーマにしている子供では“来年こそ犬を飼ってもらおう”というのが随分多く目立った。

審査を終わったのは3時すぎで、雨もすっかり上がり、今日12月14日という日は、日本の農業にとって、またJAにとってインパクトの大きな、慌ただしい一日だったような気がした。

(岡本広報委員)

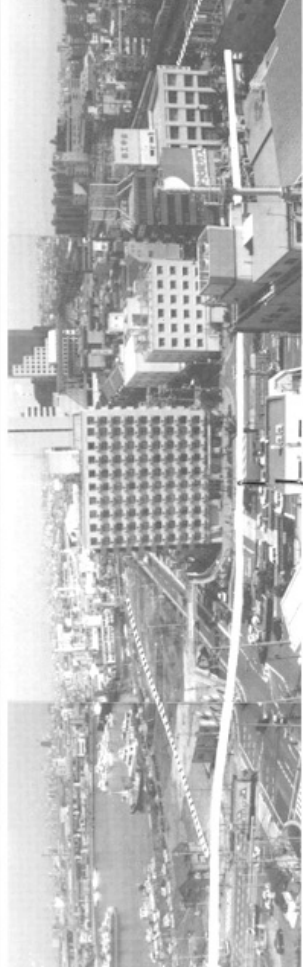
わが町 — 堺をデザインする。その1 「フェニックス地下軌道」

わずか3Km掘るだけで堺が変わる。

堺市の都市計画家があると思いますが、それは別にまったくの別のデザイナーの立場から提案してみました。
株式会社 アトリエ オカモト 岡本安吉

●堺の背骨ともいえるフェニックス通りに地下鉄を…！●旧堺港から高速艇で新空港に…！

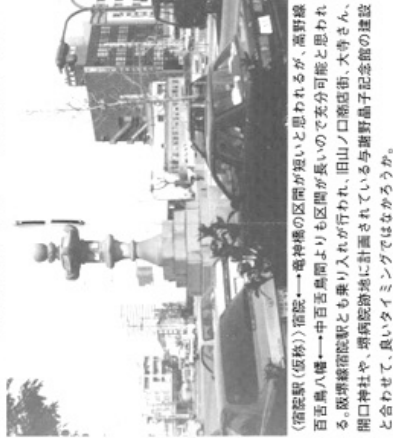
堺市内には、堺東駅と堺駅という二つの多く乗降客を持つ駅があります。その二つを結ぶ交通機関は南海バス（シャトルバス）が市内を循環して到達するシステム。たとえば南海本線沿に住む人達が、高野線を利用して富田林・河内長野・藤井寺方面に行く場合。もともと先の近鉄長野線やJR和歌山沿線、橋本、五條方面に行く場合。またその方面の人が南海本線、JR阪和線方面から関西国際空港に行く場合にも大きな時間のロス。そこで堺市内の中央環状線、向陵西（仁徳陵、北）あたりから旧堺電駅までの（3km）区間を南海高野線、地下延長して東西に堺市内の人の流れを変え、高野線のターミナル駅として重みが堺経済に活力を与え、大阪の第一衛星都市としての堺が確立されるだろう。とかく堺には“体があっても顔がない”といわれてきた。つまり大工場があっても本社がない、本社事務所は大阪、東京と堺市内には設けようとしなない。またオフィス以外にも稼れつつある商



店街、飲食街、等も新しく計画されている中心部の公共建設物と相まって大きな影響をあたえると思う。幸い、メインストリートであるフェニックス通りは全国に誇れる広い通りで、工事による交通渋滞も最小限で、土地確保による立ち退き、買収などの煩わしいことも最小で工事が進められると思う。終着の電神橋駅（仮称）、地下連絡路にて南海本線堺駅、南宮北口までの250mを直結する。旧堺港にも地下連絡路にて直結し、堺港南岸壁あたりから、堅川河口あたりから関西国際空港向けの高速度を養わせると電神橋駅の重要性が100%発揮されると思う。又、近い将来、西に広がりがつつま（堺駅）より築港埋立地、先端まで約5km）まで、延長してはと思う。堺は、この広大土地を地下延長により有効利用しない手はない。

（終着、電神橋駅（仮称））電神橋駅二丁目付近の地下にターミナル駅を地下道と動く歩道を設置してその距離を縮める。大正公園地下部分に、ターミナルに必要なとなる駐車場を設ける。地上部分には、今まで以上に、野外ステージ、緑地帯などを設け天王寺公園に匹敵するような公園にする。

速い時代の我々の先輩諸氏が遠くアジアの国々と交易しその物資を堺港に荷揚げし、東へ西へと運搬したと思われる。今日我々も蒸直にそのルートを見直し、その便利さを利用しようと思いませんか。



（旧堺港）関西国際空港がオープンすると高速湾岸線、国道26号線、臨海線が交通渋滞でパンク寸前になるのは必至と思われる。そこで、旧堺港、南側岸壁に新空港行、高速船発着口を作り、運行させる。電神橋駅（仮称）、堺駅に近く、忘れられたる堺港附近に活力をかき入ると思う。又、現在堅川河口に有る水門の幅を広げ、堺駅アットホームの下を潜り抜けて、駅前ロータリー新開あたりに高速艇乗降口を設け、高速艇のモモンストレーションを宣伝の役目になる。

（電神橋駅（仮称））電神橋の区画が短いと思われるが、高野線百五番八層——中百五番間よりも区画が長いので充分可能と思われる。阪堺線電神橋駅とも乗り入れが行われ、旧山ノ口商店街、大寺さん、開口神社や、堺病院跡地に計画されている与堺野崎子記念館の建設と合わせて、良いタイミングではなからうか。

（一条通り駅（仮称））堺東駅まで600m。堺役所をはじめ裁判所、税務署、市民会館、等々の公共機関や瓦町、築橋の商店街、飲食店街へも便利で、一条通り南方面のアーケード商店街にも今以上に、人の流れが予想される。

（高野線地下軌道分岐点）高野線、向陵西4丁目近、国道310号線が中央環状線に交差している所（仁徳陵、北）あたりから地下軌道に進入する。以前、近鉄大原線と本町六、赤十字病院北付近で同じような工事が行われた。さいわい私有地が少なく、カーブも緩やかに設けられる。

「ポルトス堺」雑感

岡村 哲伸

「ポルトス堺」は、堺市のハーバーライト21構想に基づき、堺駅西地区を含む旧堺港周辺設備の第一段として、昨年11月にオープンしました。今年開港をひかえる関西国際空港と大阪都心部を結ぶ新しい玄関口としての役割をになっており、ホテル棟「リーガロイヤルホテル堺」と商業棟「ポルトス・プラザ」、事務所棟「ポルトス・センタービル」で構成される複合施設であり、交通広場とファミリーガーデンをまたぐデッキが駅舎を結び、ポルトス(ラテン語で「港」)のイメージづくりをしています。

港のイメージづくりとしては、南海本線堺駅南口、駅前交通広場周辺設備におけるモニュメント「南蛮船」とまわりをかこむ灯台を思わせるガーデン・フェンス、及び水銀灯等があり、さらに駅にそって北東に進むと、内川にかかる南蛮橋と、橋にたたずむ南蛮人の影像がみられます。

このように、中世堺の港と、新しい「ポルトス堺」とが内川にかかる南蛮橋によってつながり、都市景観をもたらしております。

夕刻から、リーガロイヤルホテル堺の25階にあるスカイラウンジからの展望は、南東にみる堺市内の街あかりと、北



「南蛮船」1986.4.23



「飛翔」1993.11.4

西にみる旧堺港や、阪神高速湾岸線を通る車のライトが、エキゾチック

な景色をつくりだしており、堺の魅力新発見の名所といえます。

また、イタリアの人々の手による美しい大理石モザイクのある「ポルトス・プラザ」はガラス張りの大屋根におおわれた開放的な憩いの場として、各種イベントも開催される空間となっております。

最後になりますが、水の流れるファミリーガーデンに港の灯台に鳥が飛び翔ぶ様子をイメージして制作した「飛翔」を「ポルトス・プラザ」の一角に(株)白石彫刻研究所の企画、展示コーナーとして、杉村仁作「かたちのなかのかたち」と自作「ルミⅢ」を設置しております。

これらが「ポルトス堺」についての、私の雑感として紹介させていただきます。

堺・今・昔

熊野街道(小栗街道)

老 健一

浪速から紀伊への道“熊野ヲホミチ”は、延喜七年(907)宇田天皇の熊野参詣から、京の貴族のお参りが盛んになり、寛治四年(1090)白河上皇が参詣されてからは、国の重要な公道として著名になったといえます。

そのころ熊野詣は、京の鳥羽から淀川を船で下り、攝津の八軒家船着場(天満橋の西)から上陸、熊野権現の分霊を祀った第一王子社、津守王子社に参拝し(大阪市中央区石町2丁目)以後、九十九王子社を巡拝しながら、陸路を南へ行きます。堺へ来るまでに、坂口、郡戸、上野、四天王寺の熊野遥拝石、阿倍野(現在してます)津守、若松御所、境(堺)と続きます。

境王子は、現在の北田出井町3丁にある、王子ヶ飢公園付近と推定され、さいきん記念碑が建立されています。境王子を南へ行くと方違神社に突き当たり、これを西へ、開口神社から山之口筋を通過して大鳥居新王子、信太王子(聖神社)へ進んだようであります。この王子というのは、沿道に九十九ヶ所(実際は百ヶ所以上とか)あり、この王子を巡拝して熊野本宮へゆくと、大願成就が確かなものになると信じられていたようであります。

室町後期の語りもの「小栗判官」の、餓鬼阿弥小栗と照手姫の道行きから、小栗街道とも呼ばれますが、貴族から武士、庶民へと拡がった熊野信仰は、おびただしい人数となり、「蟻の熊野詣」と言われるほどであったとか。

道日、大鳥神社前の熊野街道跡の道を歩いて、

昔の人の熱い信仰心と、御苦勞を偲びましたが、足の下から先人の吐息が伝わって来る、思いがしました。



境王子記念碑
北田出井町3丁



堺の熊野街道

(和歌山観光連盟刊・「歴史の道・古熊野を訪ねて」から部分掲載)

S A D A 見学会〈堺ケーブルテレビ〉

伊藤 浩平

平成6年3月25日、恒例の見学会が開催されました。今回は、地元の企業との接点を多く持とうという趣旨の元、「堺ケーブルテレビ株式会社」を訪れました。ごあいさつ及び説明には常務取締役営業部長の嶋野様と、取締役企画部長の庄野様に当たっていただきました。堺市は「高度情報都市堺」の実現を図るため、平成3年10月郵政省の推進する「テレピア構想」のモデル都市の指定を受けました。堺ケーブルテレビ(以下S T V)は地域の「まち」と「人」を結ぶ情報通信基盤としての位置づけで、同年11月第三セクターとして設立されました。本社は堺市民会館前の堺富国生命ビル内にあり、1階のショールームを始め自社スタジオまで完備しています。もともと、有線テレビは多民族、多宗教の国アメリカでその国事情にマッチした通信システムとして急速に発展しました。チャンネル数では平均150チャンネル、マンハッタン地区ではなんと500チャンネルもの驚くべき数字になっているそうです。そんなにたくさんあっても、どれを見れば良いのか困ってしまいそうですね。そしてその普及率に至っては63%と、約3戸に2戸はケーブルテレビを見ていることとなります。わがS T Vは昨年11月開局したばかりでもあり、現在のところ約3%と普及についてはこれか



らというのが実情のようです。しかし、チャンネル数については42チャンネルと日本では最多なのです。

有線テレビのシステムは、番組を提供する会社がありそれが発信する電波を通信衛星(CS)や放送衛星(BS)を通じてパラボラアンテナで受信、それらをケーブルで各家庭に送信する仕組みです。ですから電波障害がなく、とてもクリアな画像で放映されるのです。

また、S T V独自のチャンネル「あい・アイ・さかい」をもっていることも特徴で、自主編成されたプログラムによる地域密着型の番組が提供されています。当日はスタジオでの番組収録もされており、見学させていただくことができましたが、ほとんどが機械化された最先端のスタジオでした。ケーブルテレビは、可能性としてはとても高度なポテンシャルを有しており、ビデオオンデマンド(好きなときに好きな番組、ソフトが供給される仕組み)や双方向通信など未来の通信手段として大変注目されています。

番組のサービスについては、小学校区域で第4期まで分けられており、本年の11月には第2期のサービスが開始される予定です。さまざまな可能性を秘めたケーブルテレビ事業、我々デザイナーも何らかの形で参画して行ければおもしろそうだなと感じさせてくれた見学会でした。S T Vの皆さん、お仕事お邪魔しました。

ありがとうございました!!



堺の新製品フェア'94

審査委員長 垣村 三平

堺市内の企業が、この一年間に開発した新製品を一堂に集めた標記のフェアが、去る3月24日から27日まで、おおとりウィングス・1階イベント広場で開催された。

主催は堺の新製品フェア開催委員会(堺市・堺商工会議所・財団法人堺市中小企業振興会)によるもので、16企業・3団体が地場産業の自転車、刃物、繊維など多岐にわたって出品していた。

審査には、委託された審査員(7名)が、各出品物について「デザイン」「機能」「品質」「価格」それに「堺らしさ」を総合的に判断して審査を行い、その結果、奥野晴明堂のリフレ(芳香)が堺デザイン協会理事長賞に選ばれた。

堺の線香は、選びぬかれた天然香料を独自の処方により調合し、日本で最初に製造したともいわれ、今回受賞したリフレは、従来から広く寺院などで用いられていた線香の概念をのぞき、現代の生活様式に調和する芳香(におい)を新たに開発し、しかも簡潔なパッケージ・デザインで、まとめて、持つこと、使うことの楽しさを提案している。

ただセットされている香台(陶器製)の穴に、三角形の香を立てる場合、やや立てにくいという欠点がみられ、さらなる工夫をすれば、香りのブームの中でより需要が伸びると思われる。

協会ニュース

●会則の変更

平成5年6月8日堺デザイン協会第10回通常総会に於いて、会則第2章第4条2項「(3)名誉会員 本会に功労があり、理事会に於いて推薦された個人」の追加が提案、採択された。

●名誉会員の誕生

平成5年8月11日理事会に於いて、川崎浩前理事長が名誉会員第1号に推薦され、平成5年8月22日付でその称号が贈られた。

表紙のコメント

今回よりSADAの表紙、写真を撮らせていただくようになりました。私は堺のポイントとなる風景をなるべく上から、全体を見つめてみたいと思います。まず最初に旧堺港をポルトスの上から見てみました。

私達の先人が作りだし、中世の貿易で栄えた舞台とも云える堺港。その全体を上から見ると実に美しい形であることにおどろかされる。この美しいデザインの港を永いあいだ私達は見すごしてきたのではなかろうか。泉北臨海工業地帯と称するコンビナートの出現により幸か不幸か、市街地の真中にある港も全国に珍しい。この美しい形の港を整備し堺市民のリゾート地として、新しく生まれ変わってほしいと思う。

(岡本 安吉)

編集後記

会報SADA創刊からずっと堺の名所、シンボル、アッ、あそこか、と案外身近な所を魚眼レンズを使い山崎さんの素晴らしいカメラワークで捉え、表紙を飾ってきました。地表は次から次へと高い建物が建っていきます。それなら次は思いきって鳥になって上空から見てやろうと、今回から趣を変えました。魚の目から鳥の目です。上から物を見ると人間の小ささが解ります。同時にそんな小さな生物がこんなに大きな建築物をつくったのかと感心します。しかし、鳥が首をちょっと前方か上にふるとそんなものとは比較にならないほどの大きな海や、空があります。上空から地表を見おろすことなど現実にはできなかった大昔から、人間はおそらく想像の世界でイメージしていたんだろう。あるときは水中を自由に泳ぐ魚を、あるときには天空を舞う鳥になり……そんな無垢な想像力をもう一度大切にすることもデザイナーには必要な気がします。最後になりましたが、ながい同会報づくりを担当された山崎氏のご苦勞、ご尽力に感謝とお礼を申し上げます。

(広報委員 辻 哲男)

会報 **SADA** 16号
平成6年6月15日

発行 堺デザイン協会

〒590堺市北向陽町1-1-7 オカムラデザインプロ内 TEL. 0722-29-5011

編集 堺デザイン協会広報委員会